

人のつながりを活かした、 離島での出産・子育て支援

独立行政法人福祉医療機構(WAM)が行う社会福祉振興助成事業(WAM助成)は、国庫補助金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、また、子どもたちが健やかに安心して成長できるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人親子ネットワークがじゅまるの家の取り組みを紹介します。

を占めたことで注目を集めた。

徳之島は鹿児島県の南南西492km、奄美群島のほぼ中央に位置する人口約2万4000人の美しい自然に囲まれた島。

年間平均気温は21・6度と1年を通して温暖な気候で、産業はサトウキビ栽培をはじめとする農業や畜産が盛んな地域である。

合計特殊出生率が高い理由としては、初産の年齢が早い傾向にあることや、進学や就職を理由に島を離れる未出産の若い世代が多いため、未出産の女性の割合が低くなることから考えられる。

さらに、徳之島では人と人とのつながりが強く、地域全体で子どもを見守り、育てていく慣習が残っていることや、自然に恵まれ安心して子育てができる環境にあることから、女性が安心して多くの子どもを出産していることもあわせて考えられる。

◆団体概要

〒891-7101
鹿児島県大島郡徳之島町亀津2884-1
徳之島町合同会館内
TEL: 0997-82-0660
FAX: 0997-82-0660
URL: <https://gaijumaru-net.jp/tokunoshima/>
設立: 平成22年6月
代表理事: 野中 涼子

●助成実績●

○平成26年度

「子育てサポートボランティア養成講座事業」
(助成額: 204万6千円)

事業概要: 若年妊娠・ハイリスク妊娠などの妊婦や、その家族に妊娠中からの切れ目のない支援をすることを目的に、家庭訪問型子育て支援を行うボランティアの養成講座を開催するとともに、訪問支援を実施する事業

合計特殊出生率が高いことで注目

厚生労働省の平成26年人口動態統計によると、1人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを推計した合計特殊出生率は1・42となり、出生数は過去最少となるなど、人口減少や少子化への対策が喫緊の課題となっている。少子化が進行するなか、平成21年に公表された市町村別の合計特殊出生率では、鹿児島県の徳之島にある3町(伊仙町2・42、徳之島町2・18、天城町2・18)が、全国のトップ3

地域の子育て支援拠点として 広場事業を運営

このようななか、特定非営利活動法人親子ネットワークがじゅまるの家は、「親と子の健全な成長、安心して妊娠・出産・子育てができるまちづくり」を目指し、平成17年に任意団体として子育て支援の活動をスタート。平成22年にNPOの法人格を取得している。主な活動として、子育て中の親子のつどいの場「われんきや広場」の運営事業、妊娠・出産・子育てに関する相談・啓発活動事業、子育て情報サイト「がじゅまるネット」の運



営・子育て情報誌「がじゅまる通信」の発行などを実施している。

「われんきゃ広場」の「われんきゃ」は島の言葉で「子どもたち」という意味があり、地域の子育て支援拠点として、未就学児のいる親子を対象に週3回(1日5時間)開放し、子どもたちの遊び場や育児の情報提供、母親同士の仲間づくりの場を提供している。常時スタッフを2人配置し、子育ての相談を受けるとともに、工作や食育教室など親子で楽しめるさまざまなイベントを開催するほか、母親への



未就学児の親子が集う「われんきゃ広場」の活動の様子。母親への支援として子どもの一時預かりや病児保育も実施する

広場には常時2人のスタッフを配置し、子育ての相談を受けるほか、工作や食育教室など親子で楽しめるさまざまなイベントを開催



支援として、子どもの一時預かり事業(自主事業)や病児保育(徳之島町の補助事業)も実施している。

また、徳之島には常勤の小児科医がおらず、島外の病院と連携して来島してもらっているため、診療スケジュールを掲載する「がじゅまるネット」では、多くのアクセスを集める。

若年妊娠などで子育ての困難が生じる

徳之島における子育ての状況について、同法人代表理事の野中涼子氏は次のように語る。

「徳之島は合計特殊出生率が高いことで『子宝の島』として注目され、少子化といわれるなか、兄弟が4〜5人いることも珍しくありません。しかし一方で、10代の若年妊娠が増えており、子育ての困難が生じることもあります。若年の妊娠は身体的に未成熟であるためハイリスク妊娠になる可能性が高まりますし、身体的なリスクだけでなく、生活基盤が確立していないなど経済的に困窮するリスクもあります。さらに計画外や望まない妊娠であるケースも多く、子どもの虐待につながる恐れがあることも危惧されています」(以下、「」内は野中代表理事の説明)。

家庭訪問型子育て支援

ホームスタートの利用の流れ

- 1 電話・FAX・メールで、利用者から連絡を受ける
- 2 調整サポート役のコーディネーターが訪問し、利用者から支援の要望を受けて活動内容を決定する
- 3 コーディネーターはボランティアをマッチングし、利用者に紹介する(顔合わせ、訪問日程の調整等)
- 4 ボランティアは、週1回2時間程度を4回訪問して支援活動を行う
- 5 コーディネーターが再訪問し、活動を振り返るとともに、利用者から評価を受ける(一緒に活動を振り返り、終了または延長する)

利用について

- 対象は未就学児のいる家庭
- 利用料は無料
- 訪問は1回2時間を目安に、コーディネーターの訪問を含め7回訪問する
- 活動はフレンドシップを主にしたものであり、ベビーシッターや家事代行は行わない
- 訪問活動中にかかわったプライバシーに関する情報は個人情報として慎重に扱い、秘密は厳守する

また、離島である徳之島は、医療環境が十分に整備されていないことから、ハイリスク妊婦等の出産の際には、NICU(新生児特定集中治療室)が整備されている本土の病院での管理が必要となり、出産後に長期的にNICUに入院することとなれば、母子分離が避けられなくなることも虐待のリスクを高める要因になるという。

同法人は、若年妊娠やリスクのある妊娠・出産が、その後の子育てに影響を与える現状に、支援の必要性を感じたことから、徳之島の住民同士の強い結びつきを活かし、ボランティアが訪問支援を行う「ホームスタート」の取り組みを開始している。

「ホームスタート」は、イギリスで始まり



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。著作権者(独立行政法人福祉医療機構)ならびに著作権者の許可を得ない複製(コピー)、再配布を、固くお断りいたします。

子育て支援で、未就学児のいる家庭に、研修を受けた子育て経験者がボランティアとして訪問し、利用者に寄り添い、傾聴しながら支援を行う家庭訪問型支援の仕組みであり、現在、世界で22カ国、日本でも80以上の地域で実践されている。

WAM助成を活用し、「ホームスタート」の導入に取り組み

この「ホームスタート」導入の取り組みは、平成26年度のWAM助成を活用し、「子育てサポートボランティア養成講座事業」として実施した。

同事業は、若年妊娠・ハイリスク妊娠などの妊婦やその家族に妊娠中からの切れ目のない支援をすることを目的に、①家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」ボランティア養成講座の開催、②訪問支援活動、③育児教室を行った。

事業実施にあたり、町



家庭訪問型支援「ホームスタート」ボランティア養成講座では、6人が修了した



助成事業で作成した「ホームスタート」利用案内チラシ。保育所・幼稚園の行政担当課を通じ、未就学児のいる世帯全戸に配布した

や保健所・保健センター、社会福祉協議会のほか、「ホームスタート」の普及活動に取り組みNPO法人ホームスタート・ジャパンなどで構成する実行委員会を発足し、課題や運営体制について検討している。

ボランティアの養成講座では、支援に関心のある子育て経験者を対象に参加者を募集したところ、15人の応募があり、最終的に7人が受講した。養成講座のプログラムは、「ホームスタート」の役割・意義に関する講義をはじめ、傾聴の方法や家庭の多様性・子どもへの理解を深めるなど、家庭で活動するうえで重要な知識を習得する内容となっている。

ホームスタートのボランティア養成講座は、全8日間40時間の受講をはじめ、講義内容、講師の職種などが規定されているが、講師を保健師など多職種で構成する実行委員会の委員に引き受けてもらうことでスムーズにプログラムを組むことができたという。

「支援に意欲的なボランティアは、どうしてもアドバイスを送りたがる傾向にあります。自分の経験を押しつけるのではなく、養成講座ではまずはしっかりと傾聴し利用者を理解していくことを徹底的に学び、6人が修了しました」。

訪問支援を開始し、育児不安の軽減を図る

講座修了後には、養成したボランティアが、ハイリスク妊婦

や子育て中の家庭へ訪問し、傾聴しながら支援を行うことで育児不安の軽減を図った。

事業の周知方法として、ホームスタートの利用案内チラシを2000部作成し、保育所や幼稚園の行政担当課を通じて、6歳未満の子どものいる家庭に配布し、連携する保健師からの紹介を受けている。

平成26年12月～27年3月の期間に6人の利用者に対し、のべ48回の訪問支援を行っており、10代の若年初妊婦や高齢初産婦など幅広い年齢層の利用があった。

ホームスタートの利用の流れは、①依頼に基づき、②利用者の自宅にオーガナイザー（利用者）とボランティアの調整役が訪問し、支援の要望を受けて活動内容を決定、③オーガナイザーはボランティアをマッチングして利用者を紹介、④ボランティアは週1回2時間を目安に4回訪問し、支援活動を行う、⑤オーガナイザーが再訪問して活動を振り返り、利用者から支援に対する評価を受ける仕組みになっている（17頁図）。

支援において重要な役割を担うオーガナイザーの研修は、野中代表理事と法人職員の2人が受けており、マッチングでは利用者ボランティアの相性や年齢、子どもの人数のほか、シングルマザーや島出身者同士の方がよいのか等を考慮しながら、利用者の課題にあった最適な人材を紹介する。なお、「ホームスタート」は出産後の支援の仕組みであるが、同人では妊娠中からのケアが必要と考えたことから、産前については「ホームスタート」の仕組みとは別に、助産師である野中代表理事が訪問支援を行うこととしている。



具体的な活動内容としては、育児に関する相談を受けるほか、利用者の要望を受けて子どもと一緒に遊んだり、離乳食や菓子づくり等を行う。また、自宅にひきこもり1人では外出できない利用者もいるため、一緒に公園に出かけたり、子どもの健診のため病院に付き添うこともあるという。

『「ホームスタート」』は基本的に子育て経験者が利用者に寄り添いながら話を聞いてあげるというスタンスで、虐待やDVといった困難事例の際には保健師などの専門職につないでいきます。支援はボランティアが4回訪問し、利用者が元気になったと思ってももらえれば終了となりますが、訪問を継続してほしいという要望があれば延長していきます。

なかには母親は訪問支援を

育児教室には7組の親子が参加し、育児の知識やスキル、親子の役割を学ぶとともに、母親同士の仲間づくりにつながった



地域の力を活かし、子育てしやすい環境をつくる

特定非営利活動法人親子ネットワークがじゅまるの家
代表理事 野中 涼子氏 (助産師)

WAM 助成を活用して、ボランティアによるハイリスク妊婦等への訪問支援に取り組みましたが、利用者だけでなく、ボランティアが自分の子育ての経験が活かされる場所があることに気づいてもらえるなど、双方にとって成果をあげることができました。



島には小児科医などの専門職や医療環境が十分でないことで子育てがしにくいというイメージがありますが、人と人とのつながりがあるということが、どれだけ恵まれたことであるかを助成事業を通して再認識しました。このような地域の力を活かし、仕組みとして作りあげることが、さらに子育てをしやすい環境づくりになると実感していますし、「子宝の島」として、少子化対策のモデルとなれるよう取り組んでいきたいと考えています。

今後安心して妊娠・出産・子育てができるまちづくりを目指すとともに、「自分は愛されている」と実感できる子どもたちを育てていきたいと思えます。

希望しているにも関わらず、家族からボランティアが家庭に訪問することの同意が得られず、支援が滞る事例もあったが、そのような際には、関係機関と連携したり、「われんきや広場」を利用していない時間に「広場」を活用して支援したという。

また、ボランティア自身が支援で不安や悩みを抱えないよう、養成講座後も利用者の事例をもとにしたロールプレイを中心にフォローアップ研修を実施しており、スキルを高めるとともに、悩みの相談を受けるなどボランティアへの継続的なフォローも行っている。

支援を利用した母親の訪問評価チェックリストでは、約8割が満足したという評価を受けており、「ゆつくり話を聞いてもらえて心が落ち着いた」、「穏やかな気持ちで子どもと

接することができるようになった」という声が寄せられている。また、訪問活動のなかで「われんきや広場」に参加した利用者が、ホームスタート終了後に自ら「広場」に参加してくれるようになったケースもあった。

育児教室を開催し 母親の仲間づくり につなげる

そのほか助成事業では、初めての子どもを出産した母親と0歳児の親子を対象にした育児教室を開催し、7組の親子が参加した。育児教室では母親同士が話しあうなかで育児の知識やスキル、親の役割などを一緒に学ぶ内容となっており、参加した母親の子育て仲間をつくることにつながっている。

地域のつながりが希薄化するなか、安心して子育てができる取り組みが全国に広がるのが期待される。



社会福祉振興
助成事業に関する
お問い合わせ

NPO 支援課 (助成事業の募集、審査に関するお問い合わせ)

TEL : 03-3438-4756

NPO 振興課 (助成事業の完了、事業評価に関するお問い合わせ)

TEL : 03-3438-9942

FAX : 03-3438-0218 (共通)

